

大分県 現代俳句協会 会報

第127号

令和5年1月10日



写真と文：足立 攝

現代俳句歳時記 【臘梅（ロウバイ）】

臘梅は臘月（旧暦12月）頃に咲くのでこの名前がついた。葉が出る前に香りのよい黄色い花が数個ずつ下向きまたは横向きに咲く。半透明な花びらは蠟細工のようである。中国原産で唐梅とも呼ばれる。

臘梅と幾度も答へ淋しき日

阿部みどり女

大分県現代俳句協会の第33回定期総会を本年2月23日（木曜・天皇誕生日）の10時半から、大分ホルトホールの302会議室で開催します。大分ホルトホールは大分駅上野口を出ると、道路を挟んですぐ左側の建物です。毎回、反対側にある大分コンパルホールと勘違いする人がいますので、注意してください。この総会は前年度活動の報告と、本年度の事業内容を決定的ことがおこな任務です。改選総会ではないので、役員交代は行われません。中村和弘本部長を招聘した第30回総会以来まる三年、県協会として人の集まるイベントができずにいました。政府の行動制限をとまなう自粛要請の撤廃を受けて、令和五年度は積極的に攻めてゆく活

午後は参加者で懇親句会

動を再開したいと思います。第33回大分県現代俳句大会、第20回吟行大会、夏季勉強会など複数のイベントを会員の総合力で成功させましょう。新入会員を含めて全ての会員が、条件の許す限り総会に参加して、私たちの協会を全員の方で発展させてくれることを願っています。総会のあと、昼食を挟んで午後からは懇親句会を開催します。事前各自2句の投句をしてもらい、当日は選句からスタートします。総会と懇親句会には会員以外もオブザーバー参加することができま。なお、弁当は支給されませんので、会場ビル内のレストランを利用するか、各自弁当を用意して下さい。大分駅まで徒歩2分ですので、駅売店を利用することもできます。会場の地階には有料の駐車場があります。

総会を三年ぶりに開催

2月23日(祝)10時半開会 大分ホルトホール

令和四年 自薦作品 結果発表

名月に母を還してよりの黙

足立 撮影

〈13点〉

〈12点〉

稲刈を終えた空から透きとおる

足立 撮影

〈9点〉

冬青空人の祈りが満ちている

足立 町子

〈8点〉

ひまわりを咲かせて戦争を見ておりぬ

宮川三保子

〈11点〉

ほろほろと故郷をこぼす蓼の花

菅 撮影

脱皮の蛇途中をだれも見えていない

有村 王志

秋天にあしたを預け深呼吸

甲斐加代子

〈10点〉

のりしろでつぎ足す命髪洗う

岸本千鶴子

蓄飯の湯気にちちはは降臨す

河野 輝暉

子に逝かれ萩にも散られ忘れ鎌

河野 輝暉

バス停の女が褪せてゆく残暑

神 慶子

捺印を逆さに押しして晩夏光

河野 則子

過去の翳落とす棚田の稲を刈る

上田たかし

老人を詩人に変える秋の空

小野みち子

名月の下にもいくさする人ら

坂本 一光

どちらかが突き放したか流れ星

佐藤 珠幸

〈6点〉

影のあるものが吼える後の月

足立 撮影

眠る師のあたたかくあり石露の花

足立 町子

プリントが破れる程に消して夏

本田 圭子

野の花を摘むことをやめ合掌す

河野 則子

これからは余生と決めて春炬燵

御手洗豊海

無花果や与えるだけが愛じゃない

陣野千恵子

早蕨や一代きりの開拓史

福田 英子

自撮り棒ぬつと突き出る鯨日和

足立 撮影

ごみ出しやマスクで隠す朝の顔

河野 則子

俎に葱の香残し出勤す

河野 則子

透きとおる童の歌や天高し

菅 勲

名月に主役を譲る天守閣

岡村 君香

向日葵のむこうに戦争未亡人

鎌倉真由美

秋灯下きれいな嘘を重ねゆく

上田たかし

平和論説いてさんまの客でいる

上田たかし

団栗を踏まねば行けぬ道具小屋

吉田 素子

十二月八日両手につつむ膝がしら

白土 正江

第一回雑詠句会作品募集

◇新春、または冬の句3句を、ハガキ、FAX、メール等でお送りください。

◇締切は二月十日（金）消印有効。事務局足立まで。

◇すでに投句済みの人は注意してください。二重投稿になった場合は新しい方を優先。

◇詳しくは句会報21号10Pを。



県協会『合同句集・第六集』作品募集

大分県現代俳句協会は、平成8年を第一回として、以来5年ごとに「合同句集」を発行してきました。

この合同句集は現在の協会の作品を協会内外に示し、これを協会の歩みとして記録するとともに、協会員相互の俳句研鑽に資することが目的です。平成29年に第五集が発行されていますので、令和4年が合同句集発行の年に当たります。

作品を載せるか載せないかは会員の任意ですが、新入会員を含めすべての会員がこの事業に参加することを期待しています。

新入会員が多いので、以下に募集要項を解説します。

《作品20句》

合同句集「五集」以降の作品20句を自選(自分で選ぶこと)してください。作句の年はそれほど厳密でなくてかまいませんし、既発表・未発表は問いません。ただしすでに合同句集に載せた作品は避けてください。テーマやトーンを一致させるのも、

バラバラの作品の集合体でも、作品の構成は会員の自由です。

「五集」に参加していない方は、たとえ十年前のものでもかまいませんので、全ての自作の作品の中から20句を選んでください。「自信がない」とか、「もっと上手くなつてから」などと考える必要はまったくありません。現在の実力をありのままに記録することに合同句集の意義があります。記念写真と同じです。

《タイトル》

作品20句のタイトルです。自分の作品を象徴するようなタイトルであれば、作品と直接関係のないものでもかまいません。1字以上10字以内。

《写真》

顔写真をお送りください。鮮明なものであれば自分以外が映り込んでいるものでもかまいません。切り抜きは写真を傷つけぬように事務局でソフトウエア的に行います。ポーズをとった写真でも採用するのは首下

10センチくらいまでです。現在適当なものがなければ、大きな商業施設等に設置してある免許証やパスポート用の自動撮影機をご利用ください。提出してもらった写真は、合同句集完成の際に必ずお返しします。

《コメント》

コメントを二百文字以内で書いてください。俳句を始めたきっかけや、今自分俳句をどう考えているか等々、何でもかまいません。二百字あればかなりまとまった内容が書けます。

《費用》

一人五千円で合同句集三冊を差し上げます。送料を含みます。三冊以上希望される方は一冊につき千円で何冊でもお分けします。印刷関連経費が高騰していますが、できるだけ経費節減に努めます。

《締切》2月末日まで。4月中に発行予定です。応募用紙は読めさえすれば何でもかまいません。

大分県現代俳句協会

連載・俳句講座 〈第4回・俳句上達へのアドバイス〉

これまで「季語」「切れ」「定型」について考えてきた。これらを俳句の三要素と呼ぶ人もいれば、呼ばない人もいる。俳句を完成された文学形態とみる人、俳句はいまだ発展途上の文学と考える人として見解は異なるのかも知れない。当協会の半分以上を占める新会員に向けた連載であったが、先輩格の会員からもためになった、面白かったという感想が届き、他県の俳人からも譲ってほしいと問い合わせがあり数回増刷した。今回は俳句の上達法、あるいは句会の活用方法である。義務感だけでは俳句は続けられない。俳句が上手くなれば、俳句の喜びも大きくなる。俳句上達の方法論を具体的、経験的に論じてもらう。

句会の悦楽——俳句上達へのアドバイス

河野 輝暉

みどりこのちんぼこつまむ夏の父

この俳句を一見してどう感じましたか。平明で小学生でも理解できる句でしょう。作者の正体をあかせば金子兜太です。埼玉県秩父生まれ。父も俳人で尹昔紅との俳名で藪医者。兜太は東大出。中学生の時、自身はまだ作句に興味はなかったが、家で月一回は開かれる句会を傍観していた。句を巡って口論、喧嘩を混じえて、まことに賑やか。酒を、俳句をネタに飲んで。おとりもちの母親は愛想を尽かし、子の兜太に、お前は

俳句をやつてはいかん、と窘めたと言う。掲句解説の余裕は無いが、言いたい事は句会にも二種あるということ。甲論乙駁する句友の句会、互に出句を論じ合って終わる形態の句会は全員の力量は揃っている条件が必要。欠点はタクトを振る指導的リーダーが不在なので、どの句が良いのか、何故ここがいけないのか、どう添削したら改善するのか等が曖昧である事。

後の一種の句会。それは学校の授業型の句会である。予め期限内に三句を投句しておきそれを無記名で全

員の作品を印刷配布して句会開始。講師が出句全句について、感心したよい句の理由を言って褒めてくれ、悪い所があればその理由を指摘して添削をする。鳥合の衆の賑わいは無いが、自分の作品の可否が明確になって改善進歩が見られるのが長所。初心者はこの後の方の句会形式を選ぶのがおすすめだ。

句会形式に三種目を補うとすれば前二種の折衷した会だ。会員どうしが無記名の他人の作品から優れたと思いい、また好きな句を四句選んで発表する。点数発表で高点を取った者はその日一日中嬉しく、作句のモチベーションションが高揚するだろう。その上、各員選者は何故自分の選んだ句が佳句なのかの短評を発表する。鑑

賞力向上は作句力の向上にもなる。この句会形式は前二種を折衷したものと云ってよく、会員同志の心が通じ合うことになる。

当国東俳句会は、最後に述べた俳句会形式をとっている。この形式の良い所は初心者でも学校の生徒の様に説明が分かり易く参加できること。先述の兜太家での句会は相当の俳句猛者ばかりでないで成立しない。さて次に世界中で俳句形式ほど民主主義の文芸は類例が無いということ。俳句作者と鑑賞者が平等である。主従の関係ではない。よく、句会では「此の句の意味がよく分からないが、私の解釈で間違いはないのか後で作者に正解をたずねてみましょう」という場面がある。作者の句意を聞くのも参考にはなるが、作り方が悪い場合もあり、作者の答が最高裁判所の判決ではないのだ。

俳句とは作者の一人相撲ではなく、作者と読者の共同作業であり、読者を尊敬する文学である。人の句を味う者にとつて、俳句が特有の鋭い喜びを感じさせるのも、読者の創作的解釈の余地が作者によって予め準備されているからだ。作者と鑑賞者が対等なコミュニケーションを交わすことで俳句の短詩として成り立つ。

「去来抄」に見られる芭蕉の言葉に「謂ひ応せて何かある」がある。言い尽くさないことによつて逆に言った以上に無限のことを表わす、意である。弟子の其角の一句について芭蕉は非常な残念さを表明したとされる。師弟間の厳しさのドラマも面白いが、俳句の真髓を表している。俳句は作者と読者の合作で成立する点、詩や小説には無い悦楽を得られるジャンルである事は誇りである。鑑賞者側の責任について考えたことがあるだろうか。この側も感性を磨き広く読書して教養を高め、世の名作を沢山読み、短歌や詩、漢詩、文学性の高い小説を読む著者を心がけることが理想である。

話は変わる。俳句を一人でシコシコ作ることも句会と思つている、という高橋睦郎氏のような御人もいる。反面「私がいも無人島にいたら俳句は止めます。読者の反応があり、会話を交わせることが楽しい。共感してもらえないことへの飢えみたいなものがあるんです。」と言つたのは106歳の俳人、金原まさ子さん。人は嘘と分かつていても誉められると嬉しい。句会ではそれが出来る。新聞に自分の俳句が活字になった時の感動は日

常の幸福である。対面句会の生み出した産物である。

ところで、今の11月の大分合同新聞に「私と新聞」をテーマに高校生が文が出ていた。曰く「僕は新聞を読まない。スマートニュースというアプリもあつて新聞より情報が早いから。ツイッター等のSNSを見る人が多くなり、新聞は衰退していくと思います」と。

読んだ私はショックを受け、いかに自分が活字古代人のシーラカンスか、と沈んだ。

同じ紙面に痛く共感した。「共感性低下の韓国社会」との見出し。要

句会に参加して

俳句は世界で一番短い詩であり誰にでも簡単に作ることが出来ます。

私も初学時代指折り数えて五、七、五の十七音字を並べて作ることができました。俳句は誰のためでもない自分のために作るものだと思つています。自由に自分自身を表現することが大切で、最初は1句く20句、50句と作っていくと自分史になる魅力もあります。

俳句のバイブルとも言われる歳時

約すると「ソウルの繁華街で起きたハロウィーンのイベントで雑踏事故が発生し156人が死亡。コロナ禍で外出制限が長期にわり活動、外出が制限されて孤立感にさいなまれた人々。リアルな他者との一体感に渴望した結果、混雑し阿鼻叫喚の結果となつた」或る大学教授が執筆していた。

こちらの論評と、先の高校生の意見の間に深い関連性があると思つた。スマートフォン等の通信ツールは一面、孤立のリスクがある。新聞は人間的暖みの情感がある。俳句もAI俳句というものがあるという。便利さ、合理性ばかりの追及が現代の

宮川三保子

記も必要で、歳時記は春夏秋冬と新年に分けられていて、その中に時候、天文、地理、人事、動物、植物に配列されています。歳時記と仲よくなることも大切に思います。

私が作句する時に座右の銘にしている言葉があります。中国の「三多」という言葉です。

- 1、他の人の作品を多く読む
- 2、多くの作品を作る
- 3、多くの作品をすすめる

不幸ばかりでなく犯罪の遠因にもなつてはいないか。

・露の世は露の世ながらさりながら
(一茶)

この句は長男に続き幼い次女を喪つた時の句

・糸瓜咲いて痰のつまりし仏かな
(子規)

この句は子規が結核性カリエスで亡くなる直前の作。火宅の心境を人に訴える事によつて一瞬であつても俳句は極楽に遊べるのだ。

出典「金子兜太の世界」
角川文芸出版

完

……と言つことを作句する時に頭の隅に留めています。

又、句会に参加することで、他の参加者の目にさらして客観的に評価を仰ぐ良い機会になっています。

他の参加者の作句に接することで、自分とは違う視点や感覚、表現方法を学ぶことが出来るとも勉強になっています。

ぜひ句会に参加されることをおすすめしたいと思います。

終

俳句を始めて日の浅いかたへ

俳句を育てる

伊藤 利恵

俳句は句会に尽きると思っています。私の場合、勧められるままに五つの俳句（らしきもの）を携えて、津田露先生の句会に参加したことが俳句との縁の始まりでした。半分は義理で参加したのですが、その句会がめっぽう楽しくて病みつきになりました。おいしい酒と肴と、はにかみ癖の毒舌家たちと、当時、社交不安傾向にあった私が、臆せず会話できたことがうれしかったのです。以来ずっと、句会に出たいがためにだけ月に五句をなんとか作ってきました。俳句の上達法の一つとして「たくさん作ってたくさん捨てる」

この連載の感想、意見、これら取りあげてほしいテーマなどを募集します。

俳句では「説明しない」と言われませんが、なぜ説明は良くないのですか？ 説明と描写はどの違いですか？、などという疑問が生じたときはどんな些細なことでも遠慮なく事務局へご連絡ください。連載で答えていきたいと思えます。

ことがよく挙げられますし、実際うなのかもしれないですが、私はそれを実践できませんでした。

俳句を作るのは、句会の前の晩だったり、句会に向かう途中の車の中だったり、出来はともかく活きだけはよかったですと思います。と言っても私の句歴はあまり長くない、四十歳から五十歳の十年間が主な活動期間だったと記憶しています。それから現在に至るまで、仕事中心の二十年間をすごしてきました。それでも時々無性に俳句が懐かしくなつて、なじみの句会にでかけたりしていました。そしてここ一年は、コロナ禍で職業柄の制約もあり通信句会を開催しています。リアル句会に比べれば当然面白さは半減します。それでも二か月に一度五句を作ることができているので、今はそれをよしとしているところですよ。

リアル句会の面白さのひとつは、「高得点句」等のゲーム性でしょうか。高得点句は、まずは素直に嬉しいものです。しかし「高得点句に名句無し」ですから、やっかみも半分、たいていはメンバーに滅多斬りにさ

れます。ただ、「それでもあなた、この句を探りましたよね」という伝家の宝刀があるので、少々のやいばは斬り返せます。ここらあたりの駆け引きは何回やってもその都度あたらしく、飽きることがありません。

それから「特選句」というくすぐりもうれしいことです。特選句は、概ね褒めてもらえます。一点しか入らなかった句が誰かの特選だったりすると、選者が私のこころの深い理解者のように思えてきたりします。もちろん「採らずの弁」には立ち向かわなくてはならないのですが、選者がさつそうとナイトの役割をかつてくれます。

そして点数の全く入らなかった句には、メンバー全員の隠し持ったやさしさが、これでもかと降り注ぎます。「ここをこうすればよい句になります」などと、高僧のような声音で言ってくれる人がいたりもして、さつきまでの駄句が俄かにはればれと「名句」に変貌することさえあります。

句の評価の合間に飛び交う他愛のない話も耳に心地良いものです。それが段々と文芸時評の様相を帯びてきたりすると、「まあまあ」と酒を差しあつたりして……。

ああもう一度、あの場所に戻りたいものです。

それにしてもたった十七音のつぶやきに良い齢をした大人たちが、ああでもないこうでもない熱くなれるのですからリアル句会の空間は不思議です。エキセントリックでエロチックで、桃源郷の趣、でしょうか。そして多分、この句会という桃源郷の、句座を囲む人達のまなざしや心意気のなかで、はいくびとの俳句は豊かになり、磨かれてゆくのだと思います。

「俳句の上達法」として、お伝えできる程のものが無く申し訳ないのですが、「それぞれの性分に合った句会を探すこと」を、最もたいせつなひとつとして挙げたいと思います。ただ、句会を桃源郷とするためには、いささかの礼儀は必要でしょう。音楽や美術、俳句に限らず文芸全般、世の中の美しいもの、美しくもないもの、いろいろなものに触れる機会を持つ努力を、それぞれがするべきかと思えます。

ああ、ほんとうにもう一度あの場所に戻りたいと思います。でもほとんどの仲間たちはもうすでに居なくなりました。たくさんさんの魅力をまき散らして、輝いて、あつという間に。

初学の頃は一か月に千句以上の乱作も

有村 王志

事務局から俳句上達のアドバイスというテーマをいただいた。上達は兎も角、筆者の句歴を披露することにより何か参考になるものがあればと思います。(氏名の敬称略)

十九歳で始めた俳句、二十歳になって大分から発行していた田原千暉の「石」に入会当時は足立雅泉、大岩水太郎、土屋北彦、宇都宮靖などのそうそうたるメンバーがいた。それから丁度十年、金子兜太の「海程」に参加し、以降今日まで営々と続いている。とりわけ、「石」で十年近くなつて、やはり、何か理論武装をする必要を覚えて、当時、「短詩型の文学と創造」を発行していた金子兜太に魅かれて「海程」へ投句を始め、中央誌は「海程」に、地方誌は地元の「石」に寄るといふ二本立てでもある。このように私自身は同行の趣味を持つ諸先輩の集まる結社誌に所属して研鑽し揉まれてきた。句会については九州で海程人の最も多い宮崎県に次いで多い熊本県の月例会に車で二時間ほどの時間をかけて出席し研鑽、交流をしてきたこともありませぬ。また、大会や句会などで

は、どの作家がどういう作品を選んだのか、全国大会の場合、兜太がどういふ作品を選んだのかということは必ず見えてきました。また、自分の作品を誰が選んでくれたのかという視点を持つことは大事だと思っています。

初学の頃は、歳時記を買って、その豊富な語彙に圧倒されていた記憶があり、いま振り返ると、「ため」の俳句をつくっていたという思いもあります。作品は大学ノートに一か月に千句以上の乱作をしたこともありました。兎に角、夢中に俳句にのめり込んでいたことを思い出します。現在は、毎月、海程の後継誌「海原」に五句投句する必要から、一か月に四、五十句あまりを作っていますが、出来不出来、未完のままでも五が決まらない場合があります。金子兜太はかつて、一か月に三十句を作っていると述べ、俳句が出来ない時はどうするかという自分の身体の一部目、鼻、禿げ頭などを取り上げています。これに関して田原千暉は原爆忌、長崎忌などの冠言葉を素材にしていると聞いたこ

とがあります。私自身は安西篤の金子兜太作品三百句の小冊子を何度も読み直して、自分なりの方向を確認してきました。

俳句は沢山作り沢山捨てる、二つ目は多くの作品を読むこと。類想・類型からの脱却ということも大事だと思います。

また、県庁近くの古木屋に立ち寄って俳句関係の書籍を漁ったりもしました。私自身は俳句関係の書籍は少ないと思っています。散逸していません。手元にはありませんが、山本健吉の小冊子の俳句鑑賞を買ったこと。

いま、手元には三谷昭の「現代の秀句」(一九六九年発行、六百円)、昭和五十二年刊の「現代俳句を学ぶ」(西垣脩・川崎展宏)編、この本は現代俳句の歴史から師弟関係などもあり興味深いものがありました。ほかに「俳句用語辞典」(有馬朗人 金子兜太)編及び季語秀句用字・用例辞典などがあります。

俳句に対する既成観念を棄てよう

足立 攝

これまで文学の中でも俳句は新しいジャンルであることを述べてきた。詩は五千年以上の歴史があるし、小説やエッセー紀行文などは成立して

なお、現代俳句協会が創立五十周年記念事業の一貫として足かけ五年の歳月をかけた「現代俳句歳時記」について説明しておきます。

一つの特色は太陽暦(陽暦)を基準にしたこと。これは太陽暦によって培われてきた生活実感に合わせるということにあります。

もう一つは現代社会において季節性が薄れて、どの季節と決めるに悩んでいる季語については通季の部をもつけたこと。例えばシャボン玉、ブランコ、相撲などは特定の季節に属することにするに無理がある。

複数年にわたる季語としての位置づけである。その結果、協会の歳時記は春・夏・秋・冬・通季としています。ほかには無季の部は芭蕉まで遡り近世から現代まで幅広く収録していることに特色があります。これらのことを念頭に各位の特色ある風土の生活詠を期待しております。

千年以上たっている。それに比べて俳句はわずかに130年、俳諧と呼ばれていた頃まで遡ってもたかだか360年、ついこの間生まれたジャ

ンルと言っている。こんなにも歴史が浅いと一人前の文学として肩身が狭いし、伝統や歴史にコンプレックスを抱くようにもなるだろう。

アメリカの建国は1776年、赤穂浪士の討ち入りよりも74年後のことである。イスラエルはもともと新しく1948年、戦後の建国だ。世界における彼らの傍若無人な振る舞いは、この歴史の浅さによるコンプレックスが根底にあると言っても、それほどの外れにはならないのではないだろうか。俳句がことさらに古めかしい衣装を着けたがる根底と、ぼくはよく似ていると思うのである。

いまさら大して古くもない正岡子規や高浜虚子、金子兜太に帰らなくとも、彼らが夢想だにしなかった令和の最先端を切り拓く役割を担えばいい。その役割を担うことこそ、生まれたばかりの俳句にもっともふさわしい使命ではないだろうか。そしてその使命を担うために、子規や虚子や兜太が遺した俳句の方法論を大いに学び、現代に生かすのだ。それがかの天才たちの志をもっとも積極的に受け継ぐ方法である。子規や虚子や兜太を無視して、すなわち彼ら

に学ばず、自力で一から創り出していこうとすると、それははとてつもなく無駄な遠回りになるからだ。

こう書くとは何か前衛的な、これまでになかった俳句を目指せと主張しているか受けたる人があるかも知れない。それはまったくの誤解で、新しい俳句はまだ生まれていない。その萌芽と感ぜられる兆候はいたるところに見られるが、それが俳句界に顕在化しているわけではない。

ほとんどの良心的な俳人であれば、血筋や師系を看板にするのではなく、自身の実力で勝負するだろう。自分の俳句とは自分で生み出した新しい俳句である。新しい部分が本人の感性であり構成力であり、思想であるのだ。それがときに他の俳人の羨望を呼び、ブームになったりする。そのばかばかしさは、ぼくは正しいばかばかしさだと思う。こうやって俳句は新しい可能性を増やしていく。

しかしそれでは遅すぎると思う。新しいといっても、これまでの俳句の概念にとらわれ、結社特有の書き方に当てはめようとする。この縛りを、もっと目的意識的に崩していって、崩す時期に来ているのではないだろうか。従来の俳句の方法論を千

年一日のごとく踏襲しては、新しいものは生まれにくい。俳句で、私たちの「今」の気分が反映できないのであれば、俳句は「文学史」には遺つても、国民の文学にはなれないのではないだろうか。俳句バラエティなどの隆盛の中で、今まさに俳句が減びようとしていることに、ぼくは大きな危惧を感じている。俳句を真正な国民の文学として広めるのも、座興の一つとして終わらせるのも「今」にかかっている。歴史の浅い俳句はいつも消滅の危機と隣り合っているのだ。

何ことでもそうであるが、新しいものは今までなかったのだから、「ないもの」に対しての枠組みが用意されているはずがない。したがって新しいものは、常にこれまでの古い器を借りて、その中に誕生する。あのルネッサンスも伝統的な宗教絵画や宗教建築、宗教音楽……の傾向として登場するしかなかった。

登場してその傾向が支持を受けると、次第に勢力を拡大し、古い器を棄て、これまで世界に存在していなかった自らの新しいジャンルを確立するのだ。これが「進歩」の弁証法である。正岡子規も高浜虚子もその時代に

なかったものを生み出したのだから、当時の常識、当時の大御所からはずいぶん異端扱いされ、攻撃を受けただろう。それでも負けずに変革の手を緩めなかったから現代の俳句があるのだ。私たちが守るべきものは子規や虚子が当時の条件の中で語った「あれこれの言説」ではなく、その進取の精神である。これは当然すぎるくらい当然のことだろう。

ぼくが新しく俳句を始めようとする人に「俳句上達へのアドバイス」として特に提起したいことは「俳句で詩をどう表現するか、その表現の仕方を最初に学ぶ」ということだ。

これまでの俳句の指南書を見ると、まず季語を知ろう、定型で書いてみよう、切れ字を入れてみよう……などが最初に出てくる。これは大多数の俳人が考えていることで、残念ながら本部長協会の俳句入門書の構成もこうなっている。

「現代俳句は難しいので、まずは伝統系の俳句の基本をしっかり学んで、俳句の形を覚えることが先決だ。形を覚えてから現代俳句に戻つてくるとスムーズにいくよ」などと、真面目な顔で語る人がいるので思わずのけぞってしまふ。内容のない「形」

を覚えて何になるのだろうか。こんなところに高浜虚子根性が覗いて憂鬱になってしまふ。(高浜虚子根性と書いたが、高浜虚子個人は何度も書いたが清濁併せ持つとはいえぼくは天才だと尊敬している。弟子というか、虚子を語る信奉者が無能なだけだ。これは文科省もNHKもみんなそうなので根が深い)

俳句の基本は、季語でも定型でも「切れ」でもない。もちろん歴史仮名や古文法を覚えることではさらさらでない。そんなことを基本にしているから、よほど才能に恵まれた人は別として、十年たっても二十年たってもろくな俳句ができないのだ。誰が何の目的でこんな遠回りをさせているのか、ぼくは心底不思議に思う。いうまでもないことだが、芸術は「もの」ではなく精神を問題にする。見えない精神をどうして見える形にするのか、それを形象化というのが、俳句を学ぶとはつまり形象化の仕方

を学ぶことである。精神というと難しく聞こえるが、世界観や思想、良心、正義感、愛情、憎悪、嫉妬、不快感……、その意識下あるいは無意識下のすべての「思い」だと解釈すれば分かりやすいだろう。感動と言

い換えてもいい。音楽家はそれを楽器で、彫刻家はブロンズで、画家は絵の具で表現する。精神を表現することを表出という。

俳句では「きれいな」とか「大きい」とか、なるべく形容詞を使わないようにとアドバイスを受けた人も多いだろう。それは正しいが、それがどんな意味か深く考えたことはあるだろうか。俳句は負の感情を含む感動を表現するが、「母の言葉に感動す」と書けば感動が表出されたと言えるかどうかという問題である。もちろんこれでは「私が母の言葉に感動した」という事実が伝わるだけで、感動の内容はまったく伝わらない。

似たような問題で、「九条守れ」「戦争反対」と書く人がいる。戦争反対と書けばその作者は戦争反対の精神を持っていると言えらるのだろうか。「愛す」と書けば本当に愛しているのだろうか。そんなものは精神の表出でもなんでもない。結婚詐欺だつて「愛している」という言葉を実に巧みに使うだろう。逆に「イヤイヤよも好きのうち」ともいう。表現された言葉だけで気持ち(精神)を判断するのは不可能である。結局は全体像の中のどこか、意図していないどこかに精神は必ず現れるものである。「God is in the details (神は細部に宿る)」と言われる所以である。

けられて、曲りなりにも達意の文章は書き慣れている。俳句はその逆で、書かないことを旨とする文学である。なぜ書かないかというと、書かないことで書く以上の事が表現できるからだ。極端に短い詩形である俳句は、「書かないことで書く以上の内容を表現する」という、世界に類い希な奇跡を生み出した。季語よりも切れよりも定型よりも、「書かないこと」が俳句の基礎の基礎だとぼくは確信している。季語を覚えるよりこの特質を実感して訓練する方が俳句の上達ははるかに早くなる。これはぼくが実験済みだ。要約すると次のようになる

「戦争反対」と書く人がいる。戦争反対と書けばその作者は戦争反対の精神を持っていると言えらるのだろうか。「愛す」と書けば本当に愛しているのだろうか。そんなものは精神の表出でもなんでもない。結婚詐欺だつて「愛している」という言葉を実に巧みに使うだろう。逆に「イヤイヤよも好きのうち」ともいう。表現された言葉だけで気持ち(精神)を判断するのは不可能である。結局は全体像の中のどこか、意図していないどこかに精神は必ず現れるものである。「God is in the details (神は細部に宿る)」と言われる所以である。

長いエッセーを400字エッセー、200字エッセー……のように縮めていき、もうこれ以上は剥ぎ取れないという極限までに縮めたものが俳句である——というような解説を聞いた人は多いのではないだろうか。実際そう思っている人がぼくの回りにもたくさんいる。しかしそれは誤りだ。それは単に極限まで短くしたエッセーであつて俳句ではない。季語を入れたら短い雑文が俳句になるというわけでもない。それは季語の入った雑文に過ぎない。

俳句以外(小説やエッセー、作文、冷蔵庫に貼つてあるメモなど、文字で書かれたすべて)は、いかに分かりやすく書くかを学ぶ

「もの」ではなく精神を問題にする。見えない精神をどうして見える形にするのか、それを形象化というのが、俳句を学ぶとはつまり形象化の仕方

を学ぶことである。精神というと難しく聞こえるが、世界観や思想、良心、正義感、愛情、憎悪、嫉妬、不快感……、その意識下あるいは無意識下のすべての「思い」だと解釈すれば分かりやすいだろう。感動と言

い換えてもいい。音楽家はそれを楽器で、彫刻家はブロンズで、画家は絵の具で表現する。精神を表現することを表出という。

俳句では「きれいな」とか「大きい」とか、なるべく形容詞を使わないようにとアドバイスを受けた人も多いだろう。それは正しいが、それがどんな意味か深く考えたことはあるだろうか。俳句は負の感情を含む感動を表現するが、「母の言葉に感動す」と書けば感動が表出されたと言えるかどうかという問題である。もちろんこれでは「私が母の言葉に感動した」という事実が伝わるだけで、感動の内容はまったく伝わらない。

似たような問題で、「九条守れ」「戦争反対」と書く人がいる。戦争反対と書けばその作者は戦争反対の精神を持っていると言えらるのだろうか。「愛す」と書けば本当に愛しているのだろうか。そんなものは精神の表出でもなんでもない。結婚詐欺だつて「愛している」という言葉を実に巧みに使うだろう。逆に「イヤイヤよも好きのうち」ともいう。表現された言葉だけで気持ち(精神)を判断するのは不可能である。結局は全体像の中のどこか、意図していないどこかに精神は必ず現れるものである。「God is in the details (神は細部に宿る)」と言われる所以である。

長いエッセーを400字エッセー、200字エッセー……のように縮めていき、もうこれ以上は剥ぎ取れないという極限までに縮めたものが俳句である——というような解説を聞いた人は多いのではないだろうか。実際そう思っている人がぼくの回りにもたくさんいる。しかしそれは誤りだ。それは単に極限まで短くしたエッセーであつて俳句ではない。季語を入れたら短い雑文が俳句になるというわけでもない。それは季語の入った雑文に過ぎない。

俳句以外(小説やエッセー、作文、冷蔵庫に貼つてあるメモなど、文字で書かれたすべて)は、いかに分かりやすく書くかを学ぶ

たたとえば句会報19号にぼくはこう書いた。今回の第32回現代俳句大会で大会優秀賞を受賞した河野則子副会長の

作品を見てください。

「ふきのとう刻めば母が匂い立つ」
作中の私は台所で蔦の臺を刻んでいます。すると独特な鮮烈な香りがありました。すると独特な鮮烈な香りがありました。その香りで、当時の母が今の自分と同じ格好で蔦の臺を刻んでいたことをふいに思い出します。

それは幼い私に、蔦の臺の刻み方を教えてくれたなつかしい母の記憶です。私はこの時期、蔦の臺を見るたびに、若かった頃の母を昨日のことのように思い出すのです。

……このように、河野副会長の作品には、「母の恩」「母のありがたさ」とは一言も書いていないのに、直接書く何倍も鮮やかに、何倍も強く母親像が屹立します。感受性の強い人はこの句で涙する人もいるでしょう。「母の恩」と書いてしまつては、涙が出ません。

書いてあることから連想して、その向こう側が味わえるようになれば、もう選句は初心者ではありません。俳句は「説明をしない」と教わりませんが、それはこういうことなのです。

これが書かないで書くという具体例である。

「冬の潮海より深い母の恩」のよ

うな一から十までみんな書いてしまつてある作品に点が入ることもあるが、採っている人はみんな新人であることを確認してほしい。

・俳句には結論を書かない。結論は読者に想像させる

・俳句は説明しない。説明でなく描写を心がける

・俳句では言いすぎは禁物

……指導者によつて様々に言われているが、それはその指導者が問題を経験的に理解しているからであつて、言わんとすることはどれも同じだと思われる。

最後に句会のすすめである。俳句の上達の秘訣はもちろん、そもそも俳句の楽しさはこの句会にあるのではないだろうか。大分県現代俳句協会はたとえ新会員であつても、会員とあと二人（非会員でも可）の計三人集まればそれを句会と承認して、事後報告でも会場代等の費用の一部を負担したり、講師を派遣すると決めていく。いずれかの句会に属することは俳句活動の大切な一部分であると知つてほしい。

絵画でもそうであるが、低学年のお絵かきを絵画とは呼ばないだろう。家事の合間の鼻歌を声楽とは呼ばな



横山 康夫 氏 「周」

横山康夫氏らが編集委員を務める「周」の第6号が出版された。2022年11月号。同人の俳句（各10句）、エッセー等で構成されている。全国をネットする大世界の同人誌もよいが、信頼できる書き手が集まった小規模の同人誌もこだわりがあつてあたたかい。今号は横山氏の「濁流に思ふ」という短文に共感した。画家としても有名な糸大八氏「濁流を見てきて薄き敷き布団」との出会いを郷里奥耶馬溪の急流から回想。「平凡ならざる平易」にたどりつく論考に教えられる事が多い。一月の沖藪日の波がしら湧水に出て飛石の淡き列青葉騒死後も汝の遠いまなごし老い開けてのぞく他界は麥の秋汝在りしまぶしき記憶こぼれ萩

（横山氏作・編集部抄出）



中山 宙虫 氏 「霏霏Ⅱ」

霏霏Ⅱの会（会長・中山宙虫）は霏霏Ⅱ秋号を出版した。通算8号、2022年10月1日発行。同人38名による自選句5句集（音櫛人集）は読み心えがある。このほか、エッセーや句評、添削コーナーなどが充実しバラエティに富んでいる。また初代霏霏主宰で霏霏Ⅱ顧問の星永文夫氏（横浜在住）の近作や評論などにも紙数を割いていて、氏の健在ぶりがかがえてうれしい。まる二年の歳月で、霏霏Ⅱ誌も俳句作品を含めた読み物としての安定感が定まった感じがする。飽きさせない工夫がある。雨の風鈴古典に並ぶ赤と黒清張の読後くるぶしから夕焼青田波星新一がひとを消す風のない刈田に眠る大魔神蟹工船のちを養虫から聴こう

（宙虫氏作・編集部抄出）

いだらう。ところが俳句は、小学生が作っても俳句は俳句である。だから俳句は恐ろしく間口の広い文学である。誰でも気楽に始められる。

しかし気楽に始められるから気楽な文学かというところがでない。80年追い続けてもまだ追いつかない、とつもなく奥の深い文学でもある。俳句で老後の生活を楽しむことができればそれで良いと考える人もいるだろう。人生の全てをかけて俳句に没頭する人もいる。どれが良いとかは決められるものではない。せっかくこの協会に入ったのだから、せめて『書かないで書くとはどういうことか』が分かる程度には頑張っているといふ心から願う。俳句が本当に面白くなるのは、ここから先だからだ。

ドングリの背比べのような初心者の句会を問題にしない指導者もいるが、ぼくはそうは思わない。どんなに初心者だけの句会であっても、句会に属さないよりははるかにいいと思う。大分県現代俳句協会は、どんな地方のどんな小さな句会であっても決して見捨てない。全力で応援するための集団なので忘れずに相談してほしいし、句会を組織してほしい。

どの指導者に習うのも自由であるが、大事なことがある。習うとはその先生を全力で受け入れることである。ぼくが俳句をはじめた頃、忠告をしてくれた先輩がいた。「習うと言つても、良いと思うところだけ吸収して、違ふと思うところは聞かなくていい」この先輩は結局大して上達をしないまま協会をやめてしまった。都合の良いところだけを聞かなくとも甘ったれた根性で、俳句が

上達するはずがない。良いと思うところはもちろん、間違っていると思われるところ、分らないところ……それらすべてをまづ全力で受け入れて、棄てるかどうか判断するのは、その判断がくだせる実力がついたときだ。それまではどんなことでも全て肯定的に受け入れることに徹するというのが、ぼくの思う「上達の秘訣」である。

(了)

リレーエッセイ 連載

⑩

「私と俳句」 白土 正江



俳句との出会いは二度あります。

一度目は約25年前のことです。現役の看護師時代に「俳句しませんか」と同僚から声をかけられました。その時は俳句は五七五の十七音、季語を入れるぐらいのことしか知りませんでした。また私自身看護師の仕事をしたがらでは、とても俳句をする余裕はないなあと思ひこんでいました。三交替の夜勤と四人の子育て、同居の母の世話などが頭の中を駆けめぐりました。やはり退職後かなと思ひ、お断わりしました。それから俳句は忘れていました。

時はすぎ一度目はその十年後です。

近所の友人に「俳句やってみない？」と熱心に誘われました。私も退職間近ということもあり、参加することにしました。友人の知り合いの句会に参加させてもらったり、吟行にいたりしました。そのうち「たくさん俳句を作つて、たくさん捨てる」を合言葉に、週に二十句作り批評しようになりました。毎週毎週兼題を出し、俳句をつくり、選句するのくり返しです。

私は俳句を作ること自体が初めてだったので二十句はかなりしんどかったです。「一週間やつとおわつた」と思つたらもう次の分がきているという感じでした。わからないながらも、歳時記を座右の書として調べたり、先輩に聞いたり、添削してもらつたりしていました。そのうち私たちも「句会を立ち上げよう」ということになり、会場、指導者の確保、また、知りあいに声をかけて人集めをするなど具体的に決め実行しました。そして2009年9月19日一回目の句会を開きました。十名の方が参加されました。

水澄みて堤の花のうつりけり
たわわなる熟柿を狙う鳥のむれ
秋雨やかつらぎの道ぬらしけり

今見れば、恥ずかしいような懐かしいような俳句ですが、当時は必死だったことが心に残っています。そして、句会の名称もみんな考えて「水引草」と決定しました。

初めまして水引草を見染めけり
水引草わずかな土地に紅もたす

という素敵な句も生まれ、参加者で喜んだのも昨日のことのようです。水引草も健在で158回目が過ぎました。

その後私も退職して大分に転居しました。水引草には投句だけ続けます。そして、水引草の友人二人

とFAX俳句を計四名で続けています。現在、は週に十句作って選句選評など行い兼題も順番にまわして続けています。

大分に来てからは、大阪で加入していた新俳句人連盟の「とよ」に加入しました。「とよ」には十年程在籍していました。

語り部の身ぶり手ぶりや小六月
被災地の体寄せ合ふ春の雪
百万本のコスモスの自己主張

(2011年)

この十年の間にはいろんな事がありました。一番大きな事は母の死です。私は一人っ子で育ち、母との結びつきがとて強かったように感じています。一緒にいた期間も長く、55年以上です。子育ての援助や夜勤時の食事など本当に助けてもらいました。俳句の時間も援助してくれました。

私が大分に転居後は、介護のために帰阪し半月程滞在して大分に戻る生活をしていました。施設に入所してからは、三ヶ月に一度位になりました。帰阪時は水引草句会に参加したり、吟行に参加したりしていました。しかし中心は母ですから、久しぶりに会えたねと嬉しそうな顔を

する母の話をよく聞きました。おしゃべりが楽しかったです。また、食事介助をしながら一緒に食事をしたり、職員さんにお願ひして入浴介助も一緒にさせてもらいました。

母の最後の看取りもすませ、大分の俳句中心の生活に戻りました。

いくつもの基地越えてくる渡り鳥
似たもの同志といえども隙間風
大雨のたび日本壊れるきりぎりす

(2017)

2021年5月からは現代俳句協会に加入し大分句会に参加させてもらっています。大分句会は中身が濃く刺激になり、半分寝ている頭が活性化します。だからとても楽しいです。まだ一年半ですが私の目標は自分の考えた事をどのように表現するのか明確にする事です。

これからも足立夫妻や句友の皆様
の足をひっぱらないようやってゆきたいと思ひます。どうかよろしくお願ひ致します。

出棺の合図ふりだす春の雪
喘息の夫の背さする月明り
生きてゐるハイビスカスの長き舌

(2021)



幹事会 (コンパルホール12月9日)

令和五年度活動方針を協議 幹事会 & 役員会を開催

令和4年度の総括から次回総会に提案する新年度の活動計画を協議・決定するため、12月9日に足立幹事長、田代、田中、菅各幹事が集まり幹事会を開催しました。井元幹事は体調不良のため欠席しました。

この幹事会の報告を元に役員全員で役員会(文書)が開かれ全会一致で幹事会報告を承認しました。この内容が2月23日にホルトホールで開催される第34回大分県現代俳句協会総会に提案されます。(1面参照)

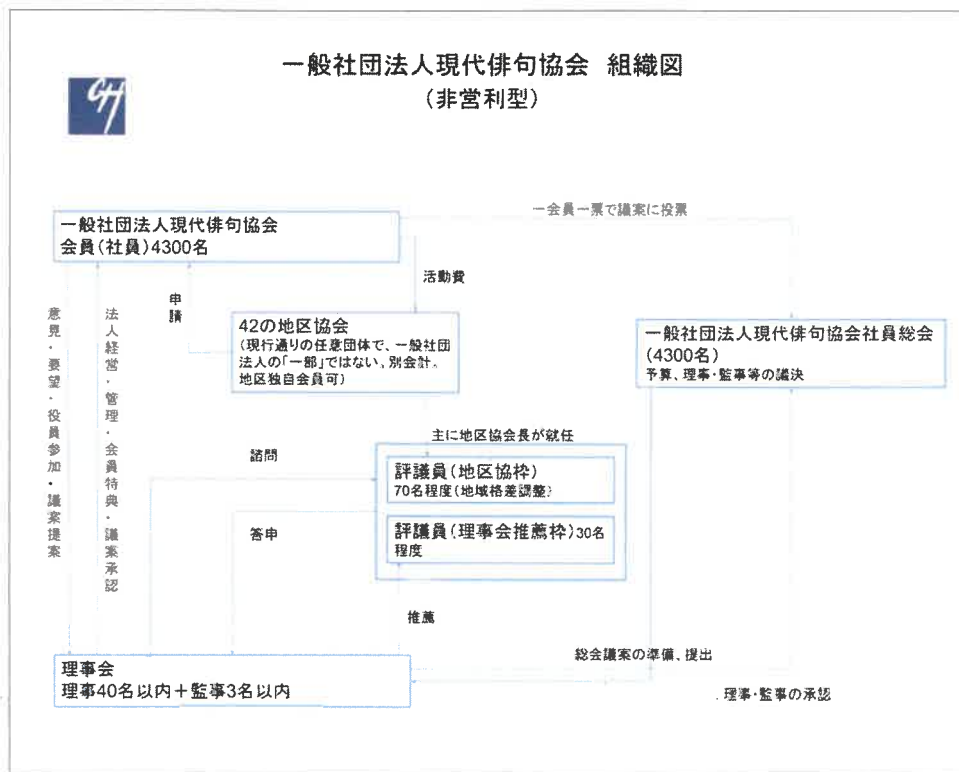
例年総会後に開かれていた「大分県現代俳句大会」は目を改めて特別体制で取り組むことになりました。



県現俳30th大会の受賞式

「本部協会」一般社団法人化

「あなたも本部協会員になりませんか」



昨年の現代俳句全国大会で示された組織図。一般社団法人化で従来の規約は無効に

現代俳句協会(本部・中村和弘会長)

盤の安定化

は昭和22年の設立以来、法的には任意団体(人格なき社団)という形態を取ってきました。この形態は大分現代俳句協会も同じです。しかし高度な情報化と、厳しいコンプライアンスを求められる社会になったことで数々の問題が顕在化しています。 ※括弧内は事務局註

(これまでの活動の範囲であれば実績から来る信用が得られますが、新規事業を展開する場合は法人人格がないことが大きなハンディになります)

○ 以上のような問題を解決するために本部協会は役員、地区協、税理士、法律家等の意見を聞きながら、一般社団法人化を進めてきました。定款を定めて、今年早々に実現する見通しです。

1. 資産の保全
2. 重要諸契約の円滑な運用
3. 社会的信用の担保
4. 活動の活性化

地区協を含めて同時に法人化をするのか、本部だけの法人化かという点も協議されましたが、結局本部だけが一般社団法人化されることになり、地区と本部とは従来通り独立・対等・協力の関係になります。

(この件に関しては、たとえば本部協会の預金口座は本部役員の個人名義になっているそうです)

ただし本部のこれまでの規約は全部廃止されますので、従来とは変更になる点もあります。また、現代俳句全国大会の開催方法が変わったり、これまでの地区協議会が廃止になる関係から、九州地区現代俳句大会の開催方法に変化が生じます。その都度本紙でも紹介していきます。

2. 重要諸契約、事業実施契約 (本部協会として大きな契約をする場合、法人格がなければ契約相手が不安になります)

新たな事業への進出と財政基盤

3. 社会的信用の担保

4. 活動の活性化

前項と同様に、法人格のない組織は信用が薄くなります

4. 活動の活性化

やまなみ牧場俳句大賞



九重地方は江戸時代松尾芭蕉の高弟長野馬貞を輩出した歴史があり、馬貞の末裔である麻生良昭氏によって長く「長野馬貞顕彰俳句大会」が開催されていた。（選者・穴井太〔没後は足立雅泉〕、倉田紘文）

また当協会の会員で百一歳で逝去した駒走松恵氏は「九重の女芭蕉」と呼ばれており、この地でさくらそう句会を結成し指導した。

一方当協会の会員で九重の宝八幡宮司の甲斐素純氏は平成14年から同宮でアジサイ祭を開催し、その同時イベントとして「アジサイ祭俳句大会」を実施していた。（選者・河野輝暉顧問、のち谷川彰啓顧問）アジサイ祭俳句大会は直下の風物詩になっていたが、会報125号で紹介したとおり、令和元年を最後に終了した。

これらの九重における俳句の灯をいかに継続させていくかというのが当協会の課題であった。

そんなある日、当協会の桐野力氏（本名古後粒勝氏・「広報」このえ）読者俳句選者と、やまなみ牧場の安部政児社長との食事があり「くじゅうやまなみ牧場俳句大賞」というイベントが実施できないかという話題になったという。桐野氏から足立に打診があったので、全面的に協



大賞の園田武子氏と安部社長

力したいと伝えた。

桐野氏と牧場側担当の足立章氏、そして足立の三子、真集要項、賞状、表彰式などの具体的な内容を決めていき9月1日の募集にこぎつけた。（締切は11月15日）ひとり3句以内で投句料は無料。賞状賞品等の発送はできないので表彰式に参加できる人に限るといった条件にした。

賞品は牧場の好意で、豪華なものになった。選考は桐野力氏と足立が担当することになった。

【大賞】1名「やまなみ牧場お買い物券」1万円相当と「ジングスカンセット料理2人前」招待

※大賞の句は、やまなみ牧場内に句碑を建て永年保存

【準大賞】2名「やまなみ牧場お買い物券」5千円相当と「ジングスカ

ンセット料理2人前」招待

【入選】5名「やまなみ牧場お買い物券」3千円相当と「ジングスカンセット料理2人前」招待
急遽決まった催事であり、募集開始から締切までが二ヶ月半と短かったにもかかわらず、予想を大きく上回る263句が寄せられた。

これを桐野氏と足立が
①詩になっっているか（事実ではなく
実感を描けているか）
②やまなみまたはやまなみ牧場の句
として成立しているか



霧の牧場湖畔に句碑を建てたあと、全員で記念写真

——以

上を基準
に選考し
結果を選
者二人と
牧場側と
協議の上
入賞を決
定した。

入賞者全員が牧場に来るといこと
で、当初の目的は達成された。

（一名は後日の来園）



準大賞の林香澄氏と安部社長

11月23日勤労感謝の日、あいにく
の霧雨の中で、予定通りやまなみ牧
場内の和室で「やまなみ牧場俳句大
賞」の受賞式が開催され、地元九重
大分市、別府市、国東市と県下から
参加者が集まった。
受賞作品は以下の通り。

《大賞》1名

園田 武子

《準大賞》2名

林 香澄

異国めく大きな秋の牧場かな

福田 行美

《入選》5人

まきはにて小さな自分をアートする

やまなみのハイジ

秋空をキャンバスにして三俣山

佐藤 律子

牛の眼に映る青空小六月

南雲 玉江

スリルより筆を好む山ガール

江藤 智聡

アイスより鴨の餌買う五才の児

赤峰佐代子

表彰式の後、参加者で霧にかすむ
牧場湖畔に出て、園田武子氏の句碑



を建てた。安部政児社長は「この句
碑が毎年一つずつ、十年たてば十の
句碑が並ぶことになる。俳句がこの
牧場の名物になるまで続けていき
たい」とあいさつした。

目まぐるしい開催ではあったが
「九重に俳句の灯のバトンを」とい
う試みは緒に就くことができたので
はないだろうか。後日幹事会、役員
会にこの経験を伝え、当協会がこの
催しを正式に後援することになった。

三年ぶりの文化祭に参加

《国東俳句会》

11月5日（土）と6日（日）の両
日、3年ぶりとなる第50回国東町総
合文化祭が開催されました。アスト
ホールで開催される芸能部門ととも
に、アグリホールでは13団体の展示
部門がそれぞれ力作を披露しました。

国東俳句会（河野輝暉会長）も、
作品を色紙や短冊に思い思いに手書
きし、パネルに展示しました。

写真は国東俳句会のメンバー。展
示パネル前に整列しました。

敬称略

《入会》

甲斐 恭子（九重）

春うらら喃語を交わす孫と婆

清水 明美（熊本県）

ジーパンに晒巻きつけ草相撲

《逝去謹悼》

宮崎 山景

（10月7日逝去・享年75歳）

成清 正之

（11月13日逝去・享年95歳）

あべまさる

（12月12日逝去・享年92歳）

句会探訪 ⑭

子鹿句会

子鹿句会は平成27年、富士見が丘公民館の短歌教室と同時に俳句教室として誕生した。それまでまったく俳句経験のないものが集まったの教室だった。

講師は第一回目から足立が担当したが、当時は大分現俳協の役員ではなかったため、指導に時間をかけることができた。季語の暗記や切れ字の使い方ではなく、最初から詩情をどう表現するのかの練習を続けた。技術的なことは長く俳句を続けていれば次第に



覚えてくるが、詩情を表現することは一朝一夕ではできない。作品がたとえ俳句らしくなくても、形だけ整って中身の無い作品よりは、はるかに良いという考えだった。実際会員の詩情には

すばらしいものがあり、講師の指導はその詩情の生かし方というその一点に絞っている。詩情があれば、書き方は本人の個性に任せればよいと思う。当初からの会員は、協会賞を狙えるほどの成長ぶりであり、昨年有力な新人が二人入会し、ますます楽しみである。（この欄の記事を募集中です）

《発展基金協力者》

※一口千円で受付中

・大神 愛子……………三口

・加藤 征孝……………三口

※協力ありがとうございます。

《受賞》

第41回時雨忌全国俳句大会

・池田澄子入選

芭蕉忌やざつくり言えは我も弟子

（福田 映子）

第16回平和・九条俳句大会・入選

この歌を征きて還らず法師蟬

（下司 正昭）

会費と合同句集第六集の早期振込にご協力ください

当協会の会計年度は1月から12月です。本年分の会費納入がお済みでない方は、振込用紙を同封していただきますので振り込んでください。会費は二千円で同一世帯の家族は半額です。また収入のない学生会員（専門学校を含む）は無料です。

本誌3ページで紹介した合同句集代5千円（3冊）＋（希望者のみ）

1冊につき千円を同時に振り込むと振込料が一回で済みます。振込用紙

の備考欄にその旨お書きください。

合同句集の原稿締切は、月末なので、振込と同時にできなくてかまいません。

《募集》

一面の通り、2月23日の総会の午後は懇親句会を開催します。総会参加予定者は2月9日までに2句を事務局までお送りください。

令和五年一月十日発行

会報第百二十七号

発行人・有村 王志

発行所・大分県現代俳句協会

編集人・足立 攝



大分県現代俳句協会

OITA-KEN GENDAI HAIKU ASSOCIATION

会長 有村 王志

《事務局》

〒879-7151 大分県豊後大野市三重町西泉436

足立 攝 方

TEL.&FAX. 0974-22-3749 郵便振替 01900-5-57481

URL: <http://gendaihaiku.net>

E-Mail: info@gendaihaiku.net

